

データ分析を用いて、異分野融合のハブに。



心拍のリズムの揺らぎを読み取るウェアラブルデバイス。腕に装着して得られる心拍の変動データから感情変化を可視化すること、つまり何をしている時にストレスを感じるかを調べること、例えば職場における高ストレス作業は何かを割り出すことができる。

社 会課題の多くは、単一分野からのアプローチでは解決が難しかったのが現在の研究を始めた契機です。私は、学部生時代にバックパッカーとして世界数十カ国をまわり、その後も内閣府の事業で世界4大陸を船で訪れ、タイ、カナダ、オーストラリアではそれぞれ1年以上の生活もしました(オーストラリアは4年半)。海外に友人も多く、1年以上一緒に暮らしたことがある仲間の国籍は130を優に越えます。自分なりにいろいろな現実を見てきて、人々が抱える課題の多くは、例えば、経済学、医学、工学といった単体の分野の視座だけで解決するのが難しいと感じるようになりました。



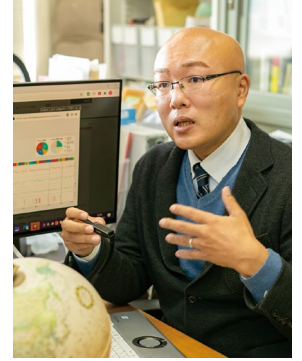
多くの国・地域を旅したバックパッカー時代。

研究者になろうと思ったのは20代半ばです。米国の農業支援NPOでインターンをしていた時に、職場にやって来た地元の研究者達が統計学を使ってマーケティングに協力するのを見て「これだ」と思いました。お金がなかったので、全額奨学金を得るのは大変でしたが、海外で博士号をとって研究者になることにしました。医療経済学を専門としたのは、高齢化が進む母国・日本で医療・介護制度を効率的かつ公平に運用する方策を探ることが重要だと考えたからです。



ラボの一コマ。分析が政策提言に繋がる可能性も。

しかし、私の研究対象はそれだけにとどまりません。経済学者として培ったデータ分析能力を武器に、医学や工学等、多くの分野を融合するハブとして、社会的課題に対する具体的な解決策を提示したいと思っています。私は常に多くの研究を同時に抱えていますが、実施中のものを含め取り組んできた研究は次を含みます。1) 民間企業の協力を得て調達した生体計を使った感情ステータスと労働生産性に関する研究、2) タクシー会社等の協力を得て進めているドライバーの感情ステータスと安全運転に関する研究、3) 広島県・広島銀行と共同で行った、プレミアム付き商品券政策の受益者偏重のメカニズムに関する研究、4) 工学部の栗田雄一先生等が進めている触感の研究をマーケティングに応用した共同研究、5) 医学部の前田慶明先生等が進めている中高年の尿失禁予防の経済



経済学部
大学院人間社会科学部研究科 教授

角谷 快彦

KADOYA YOSHIHIKO

専門研究分野

医療経済学、社会保障論、
金融リテラシー研究

波及効果を推計する共同研究、6) 他大学の医学者・心理学者等との特殊詐欺被害対策の共同研究、7) コロナ禍での人々の孤立に関する研究、8) 新型コロナワクチン接種の抵抗感に対する行動変容分析等々、紙面の都合で紹介しきれませんが、経済学を応用したデータ分析手法で、異分野融合のわくわくするようなプロジェクトをたくさん行っています。

広島大学には「がんばっている若い人を応援しよう」という気風が強くあるように思います。私自身も国際共同研究のコンソーシアムや日本学術会議等を通じて、研究成果を具体的な政策提言につなげる機会を多くいただきました。これからも「自分もわくわくする、社会に役立つ研究」を続けたいと思います。こうした思いを共有してくれる国内外のさまざまな分野の学生や研究者、そして企業、行政機関等とも積極的に連携していきます。



角谷教授がリーダーを務める医療経済研究拠点は、学内で数少ない自立型研究拠点および最先端国際プログラムの一つ。

特色ある研究施設

- スポーツセンター
- HiSIM*研究センター
- 現代インド研究センター
- ダイバーシティ研究センター
- 両生類研究センター
- トランスレーショナルリサーチセンター
- 防災・減災研究センター

- 脳・こころ・感性科学研究センター
- ゲノム編集イノベーションセンター
- デジタルものづくり教育研究センター
- AI・データイノベーション教育研究センター

*HiSIM(Hiroshima-University STARC IGFET Model)は、広島大学が半導体理工学研究センター(STARC)と共同で開発した回路設計用トランジスタモデル

全国共同利用施設

放射光科学研究センター

光速に近い電子が電磁石によって進む方向を変える時に「放射光」が発生します。この光は強力で、しかもさまざまな波長を含むことから「夢の光」と呼ばれています。本センターの研究成果は『Nature』や『Science』などのトップジャーナルに掲載されています。

